

山梨県初の総合学科高校、夢をかなえる8系列
好奇心旺盛な君、可能性をひろげたい君
この2本の楓に見守られながら、
一緒に学んでみませんか？

私たちのこと、知ってほしくて作りました。
甲府城西高校の広報誌「KJ」です。

第4号

甲府城西高校通信

今年もお世話になりました。甲府城西高校KJ通信です。

特集 文化部紹介

選択科目の幅の広さで能力発揮! 才能溢れる城西生

ライフル射撃部

勝村 香 (甲府南中出身)



ライフル射撃競技とは、10m先の0.5mmの的を狙い打つ競技です。
県でも二校しかないマイナーな競技のひとつです。その所為が三年生2名、二年生5名、一年生1名の計8名で活動しています。部員は少ないですが、どの部活にも負けないくらいのにぎやかさで頑張っています。
また、努力した結果、県大会でも優勝し、関東大会や全国大会にも出場しています。大会を通して他県の方々と交流を深められ、自分の知らないことを学ぶことができました。
仲間とともに一緒に練習することによって励まし合い、厳しい練習にも乗り越えることができ、大会にも出場することができたと思います。

山岳部

中村美穂 (名古屋市立守山西中出身)



山岳競技はただ山に登るだけではありません。体力はもちろん、学問、読図、天気図、炊事、テントの張り方など、運動部としては頭を使うことが多い競技なのです。
私たちは十月上旬に、関東大会に参加しました。関東大会は他校と競い合うことはせず、他県の仲間との交流が目的とされたので、普段接する機会のない他県の高校生と楽しく交流することができました。そこで私は、人と接する楽しさを学びました。部員に対する新たな発見や、他県についての関心を持つことができ、関東大会に参加できてよかったです。
そして、先生方が私たちのために体力を使ってまで時間を割いてご指導下さったこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

女子テニス部

有泉 朋子 (白根御勅使中出身)



夏の学年別大会から約2ヶ月、各自課題を見直し、改善していくこと心がけながら新人戦に向けて練習に励みました。
今回の新人戦は先輩が引退して初めての公式戦ということで、不安もたくさんありました。しかし結果は、団体戦準優勝、個人戦でも2名がシングルスベスト8に入り、良い結果を残すことができました。
12月に行われる関東選抜高等学校テニス大会に出場することが決まり、ずっと憧れていた舞台上で試合ができることに驚きや不安もありましたが、今は嬉しさと期待で一杯です。
山梨県や甲府城西高校の代表として、チームのため、自分のために悔いの残らない試合をしたいと思います。そのためこれからの練習に力を入れていきたいと思えます。

男子卓球部

長谷川正延 (甲府北西中出身)、森田 匠 (甲府北西中出身)



新人戦の三回戦は、(対甲府昭和高) 最も大事な試合になりました。大事な二試合目を一年の小澤が相手を圧倒して勝利、二試合目は二年の森田が相手のエースと当たり負けてしまいましたが、次に勢いをつけるような試合もにできず惜敗してしまいました。しかし、四試合目で二年の金井が相手のボールを巧みに処理し、守り勝ちしました。最後の五試合目は部長で二年の長谷川が不安と緊張の中、打ち勝ち、接戦をものにしてベスト4、すなわち県代表の切符を手に入れました。これは、出場した4人の力だけで勝つたのではなくベンチのみんなの協力があったからこそ手にできた勝利だと思います。
関東高等学校卓球新人大会は、12月に行われます。
一人一人の力をフルに発揮し上位に進出できるよう頑張ります。

□特集 文化部紹介

今回は文化部特集です。個性豊かな生徒達の活躍を紹介します。気になる部活があったら、是非のぞいてみてください。

□連載 才能溢れる城西生

選択科目の幅の広さで能力発揮!今回はライフル射撃部など全国大会や関東大会で活躍する運動部を紹介します。

編集後記

- 早いもので、今年も終わろうとしています。みなさんにとってどんな一年でしたでしょうか?
- さて、KJ通信第4号を発行いたしました。今回は、文化部特集です。今回取り上げた以外にも多くの部活動があります。是非感想をお聞かせください。
- 来年もよろしくおつきあいをお願いします。

(M.N.)

KJ通信

発行 山梨県立甲府城西高等学校
山梨県甲府市下飯田一丁目9-1 〒400-0064
TEL 055-223-3101 FAX 055-223-3103
URL: <http://www.josaih.kai.ed.jp/>
Mail: josaih@kai.ed.jp

発行日 平成20年12月15日
編集 甲府城西高等学校広報活動委員会 We love Josai.



インターアクト部

インターアクトとは International action (国際的活動) を意味します。世界の約110カ国に八千七百クラブあり、約20万人を超えて国際的組織になっています。そして様々なボランティア活動を通して、国際理解と親睦の輪を広げています。本校は甲府北口ロータリークラブのご支援を頂いて活動しています。具体的には、校内実践活動としては、夏休み中の本校の全校舎のトイレ清掃や使用済み切手とテレホンカードの回収、愛の絵葉書や希城祭での薬物撲滅募金活動などを行なっております。校外活動(主に土日)では、特別養護老人ホームへの訪問やあしなが育英会や赤い羽根などの各種街頭募金活動また、諸行事のボランティアスタッフとなったり甲府駅周辺のふれあいクリーン活動にも参加しています。また、放課後に少しずつ小物(フェルトボールや眼鏡ケース、ヒースコースターなど)を作製して、甲府特別支援学校や老人ホームに届けています。



現在、部員は9名ですが、これからも心の優しさを大切にして「インターアクト」を広められるように努力していきたいと思えます。

写真部

(平成20年度春季競写会)
 佳作 小池加奈、内藤青也、鎌倉杜音
 平成20年度秋季競写会
 佳作 内藤青也、鎌倉杜音

私たち写真部は二年生8人、一年生1人で活動を行っています。主な活動内容は、「自由に写真を撮ること」です。人、動物、空、何とことない日常、何を撮ってもOK☆。自分の撮りたいモノを好きなときに撮る、とても自由な活動です。芸術の森での撮影講習会、春・秋・冬の競写会や総合文化祭にも参加し、徐々に腕を上げています。最近では佳作に入賞する人も出てきました。これからも感性を豊かにして、作品に残していきたいと思えます。



吹奏楽部

私たち吹奏楽部は、春の総体開会式の合奏に始まり、壮行会、学園祭、そして夏の野球応援と学校を盛り上げる一役も担っています。また毎年8月に行われるコンクールの本番終了後には、言葉に言い表せない感動をあじわうことができます。現在は3年生が引退し、7名で活動中です。来年4月に新入生をたくさん迎え入れることも目標ですが、在校生の中に埋もれている大勢の吹奏楽経験者にもぜひ入部してもらいたいと思っています。



語学部

学校行事では9月の校内英語暗唱コンテストで部長が英語で司会をしました。現在、学習用のビデオ教材を用いて英語の基礎的な会話表現を楽しく学習しています。11月からは洋画の英語のせりふを聞き取る練習をする予定です。部員の希望により、英語以外にドイツ語やスペイン語の初歩も学べます。月曜日の放課後、2号館3F奥の外国語ラボ室で少人数で活動中です。興味や関心のある生徒は試しに参加してみませんか。



文化部紹介

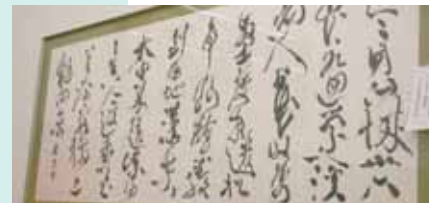
茶道部



毎週月曜日の放課後、私たち茶道部の活動が作法室で始まります。先生のご指導を受けながら、お茶の点て方・歩き方・お茶やお菓子のいただき方・・・を練習しています。他校と交流ができる学校茶道の集いや芸文祭のお茶会への参加を励みに頑張っています。お茶の作法だけでなく、おもてなしの心や人を気遣うことなど様々なことが学べます。「茶道」に堅苦しいイメージを持つ人もいますが、部活動はとても和やかで、楽しく和の心を学んでいます。

書道部

私たちは、高校芸術文化祭書道部門に参加しました。連落サイズの大作への挑戦です。書道では、一つの作品を創作するのに技術力はもちろん、精神の集中力と緊張を維持する力が必要です。何枚も失敗し苦労しましたが、最後には満足できる作品が書けました。作品は県立美術館に飾られ評価されます。これはとても貴重な経験です。自分の作品から何かを感じてくださる人がいるということは、大変うれしいことです。



ワープロ部 パソコン部

ワープロ部では、パソコンのワードソフトを使つての文書作成、タイピングの練習をしています。大会出場や検定試験の取得を目指しています。全体の力よりも個々の努力が重要です。ハードな練習があるわけではありませんが、毎日の積み重ねが大切です。資格取得したい、タイピングが上手になりたい人はぜひワープロ部へ!! また、パソコン部も兼ねているので、ワープロの検定試験が終わるとエクセルソフトを使つて情報処理の検定試験に向けての練習に入ります。ワープロと違い、データ入力し関数を使つてグラフ作成をします。制限時間内に作成できるように、パソコン機能を上手に使う練習をします。一年間の活動として、実務競技大会、ワープロ検定、情報処理検定の資格取得を目指して練習しています。



演劇部

私は人に自慢できるようなことはありません。要領も悪いし、不器用な人間です。けれど、演劇に、そして演劇を共に語る仲間、先生、応援してくださる人々に出会えたこと、そんな自分を誇りに思います。そして幸せに思います。今年度は予選を突破して、念願の本大会に出場できることが出来ました。大会が終わつて感じたのは、「喪失感」でした。でも、いつまでもそんなものに浸っている時間はありません。だって、私は、またいろいろな台本に出会い、そして「演劇」を続けていくのですから!



個性豊かな城西生 部活動も活発です!

